

# 東北大学 学部学生及び大学院生による橋梁点検実習を実施しました。 ～～近接目視、打音検査等を体験～～

平成26年8月5日、東北大学の大学生及び大学院生により、仙台市青葉区芋沢権現森山地内の「龍沢橋」において、近接目視や打音による橋梁点検実習を実施しました。

平成26年7月1日より国土交通省令が施行され、トンネル・橋等の点検は、点検の質を確保するため、近接目視により5年に1回の頻度で定期点検を実施することになりましたが、多くの市町村や企業においては、技術者の不足や、専門的な技術力の不足などが大きな課題となっております。



このため、道路インフラのメンテナンスに将来関わりが期待される土木技術系の大学生を対象に、点検を通して維持管理の重要性や老朽化対策に関する理解を深めていただくため、橋梁点検実習を実施したものです。

今回は1月15日に「インフラマネジメント研究センター」を設置した東北大学の大学生及び大学院生により、仙台市内の橋梁において実施しました。

■参加者：東北大学工学部建築・社会環境工学科の学部学生 3名  
東北大学大学院工学研究科・土木工学専攻の大学院生 5名

■主催：宮城県道路メンテナンス会議の構成機関である国・県・仙台市と、東北大学の共同

■点検橋梁：主要地方道 仙台北環状線「龍沢橋(たつざわばし)」 ※仙台市管理  
橋長49.0m、幅員24.0m(4車線)、橋梁形式＝単純鋼合成鈹桁橋  
竣工1982(S57)年、築32年経過

■実習内容：①点検ハンマーを使用した打音による橋台(下部工)の点検  
②近接目視による橋台のひび割れ状況確認  
③近接目視による鋼桁や支承等の腐食状況確認



▲浜岡企画官による実習主旨説明



▲下部工の打音による点検状況



▲下部工のひび割れ幅測定状況



▲桁端部の腐食状況確認



▲職員による鉄筋探查実演状況



▲久田教授による橋梁保全の説明